研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-137		17-072	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

A systematic review and meta-analysis of prospective associations between alcohol consumption and incident frailty.

飲酒と虚弱（フレイル）発症との関連に関する系統レビューとメタ分析

執筆者

Gotaro Kojima,　Ann Liljas,　Steve Iliffe, Stephen Jivraj, Kate Walters

掲載誌

Age Ageing. 2018 Jan 1;47(1):26-34. doi: 10.1093/ageing/afx086.

キーワード	PMID
フレイル（高齢者の筋力・活動性低下）、アルコール、系統レビュー、メタ分析	28541395

要　旨

目的：

少～中等量の飲酒はあらゆる原因による死亡と心疾患に予防的に働くとされている。しかし、飲酒とフレイル（高齢者の筋力及び活動性の低下）との関係を明らかにした報告は限られており、系統的にその関連を検証した文献を探し、メタ分析を実施した。

方法：

5 つのデータベース(Embase, Scopus, MEDLINE, CINAHL, PsycINFO)から、中年以上の地域住民を対象に初回調査時の飲酒量とその後のフレイルリスクを調査し 2000～2016 年に報告された研究を渉猟・同定した。（今回対象とした各研究にて報告された）フレイル発症のオッズ比は、変量効果モデルを使用し統合した。

結果：

系統的調査で同定した 926 の研究の内、4 つを解析対象とした。非飲酒群と比較した、最も多い飲酒量群あるいは最も高い飲酒頻度群のフレイル発症オッズ比を本メタ分析の効果指標とした。飲酒量を測定している 3 つの研究の統合結果からは、最も飲酒量の多い群がフレイルのリスクが低かった（オッズ比＝0.44、95%信頼区間 0.19–1.00, P = 0.05）。この結果に飲酒頻度を測定した研究を加味しても結果は同様であった。4 つの研究のうち 2 つにおいては、適度な飲酒量が最も低リスクであるという U 字形の関連を示唆していた。

結論：

本研究では、中年以上の地域住民において、大量の飲酒は非飲酒と比較してフレイルのリスクが低いとする科学的根拠を初めて示した。しかしながら、この関連は未調整の効果指標、残渣交絡、体調が良く無いために飲酒を止めた影響、もしくは生存バイアスなどに由来するのかもしれない。